

グループワークで使用するので、事前に目を通してください。

患者情報	<p>（仮名）野多目 春夫（のため はるお）、男性、80歳                  職業：元・教師（小学校の校長で60歳で定年退職）                  定年退職後は地域の活動に積極的に参加</p>
現病歴	<p>かかりつけの内科で検診をうけ、大腸がんの可能性があると診断を受けて前院を受診。当院にはセカンドオピニオンで来院。下行結腸癌、肝転移、腹膜播種と診断。当院での治療を開始され、抗がん剤治療の適応となり入院。腹痛があり、前院受診時より鎮痛剤カロナール 200 mgを頓用で内服している。</p>
治療	<p>治療方針：抗がん剤治療後手術を検討 mFolfox6+Pmab を開始している。</p>
医師の説明と病气に対する認識及び態度	<p>〈医師から本人に対して〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抗がん剤治療により腫瘍縮小がみられ、外科的手術が不可能ではない</li> <li>・手術は可能だが、リスクも大きい（合併症のリスクも高い）</li> <li>・手術の根治率、安全性の確保のために肝転移に関しては放射線治療の併用をすすめたい。</li> </ul> <p>〈医師へ本人の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手術ができると先生はいうが、もう80歳だし、手術をして大丈夫なのか</li> <li>・抗がん剤治療だけでもきついのに放射線治療をしても大丈夫か</li> </ul> <p>〈看護師への訴え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・治療の副作用（口内炎）がきつくて体力も落ちて、自分の体力に自信がなくなりました。</li> <li>・これまで自分のことは自分で決めてきました。これからのことも自分で考えたい。</li> <li>・僕の父と母もがんで亡くなりました。最後はともきつそうでした。父はどんなにきつくても、亡くなる直前まで自分でトイレまで歩いて、弱音を吐きませんでした。僕も弱音を吐いたら終わりだと思っています。</li> <li>・両親もがんで自分もがんになって「神様はなんて意地悪なんだろう」と思いました。</li> <li>・早く家に帰りたい。家に帰ってほしいことがたくさんあるし家が一番落ち着きます。でも、妻は本当に心配症で、すこしでも「痛い、苦しい」というと、すぐに病院に行こうといひます。放射線治療が終わったら、すぐにでも退院したいけど、妻の心配な様子を見るとそんなこと言えないな。</li> </ul>
入院後の経過	<p>自宅では、痛みはあったが日常生活はほぼ自立していた。動作時の腹痛はあるが身の回りのことは時間をかけてなんとか行っていた。ずんと重だるい痛みがあり、どこが痛むがはっきりしないこともある。夜間は3回ほど疼痛のために覚醒している。当院でフェントス1mgを開始していた。化学療法実施時には吐き気があり、食事量が落ちる。吐き気が落ち着くと口内炎が出現するが、食事がなかなか進まない。前回入院時、同室であった患者も再入院しており、挨拶をしたり、お互いに病気の話をしたりして励ましあっている。</p>

その他	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="311 1713 917 2016"> <p>胃がん 75歳死亡      乳がん 58歳死亡</p> <p>妻との2人暮らし</p> <p>妻の体調は良いが、腰が悪い（介助は不要）</p> <p>80歳</p> <p>75歳 大阪在住      72歳 鹿兒島在住      68歳 熊本在住</p> <p>55歳 会社員 北海道在住      48歳 会社員</p> <p>35歳</p> </div> <div data-bbox="925 1713 1500 1836"> <p>妻との2人暮らし</p> <p>妻の体調は良いが、腰が悪い（介助は不要）</p> </div> </div>
-----	---